

グループ活動紹介

QRGの活動紹介

QRG 幹事長（新電元工業(株)）
金本 良重

Group
Activities

1. QRGの始まりと現在

QRGは、品質工学会の設立に遡ること30年前、1963年に田口玄一博士が日本規格協会において品質に関する研究会活動を開始したことを基盤として、それから脈々と研究会活動が継続され、現在に至っている。営利を目的とする企業の寿命が50年といわれている説もあるのに、非営利の研究会が四半世紀を超えて生き延びているのは驚きと言えるだろう。

設立当初は学会のような組織がないこともあり、従来の品質の研究に飽き足らない多くの俊英が田口博士を慕い研究会に参画した。田口博士の独創的なタグチフィロソフィーを背景にさまざまな研究成果が得られ、その一部は、例えば「品質の評価」や「部門評価制度」などの名著が出版という形の中で世の中に還元されてきた。

もちろん、実践研究をしてきたのは会員であるが、研究の羅針盤や課題に対する解決方法はその多くが田口博士の力によるものだったろうと強く推測できる。その観点からQRGの強みと弱みを一言で表すと、田口博士の研究会ということであろう。例えば、受け身の姿勢でも、研究会に出席さえすれば、田口博士から何かを得られるという心地よい研究会というのが強みである。しかし、そのような心地よい環境に慣れきった後に、田口博士が不在になったときの主体的な研究活動をどのようにすれば良いかに戸惑うということが弱みである。

昔、会のメンバーが、QRGは”タグチのタグチによるタグチのための研究会”といえるかもしれない、と発言したことがある。真意は、タグチの品質

(社会に与える総損失)を確保するためにタグチメソッド(損失評価のためのSN比と損失関数などの考え方と道具)を駆使し、タグチフィロソフィー(社会の自由の増大)の実現を目指す研究会という意味なのだが、多分に、田口博士におんぶに抱っここの研究会だよね、という軽い揶揄だった気がする。実際、田口博士が長期療養に入り研究会に姿を現さなくなってからは、試行錯誤の運営が続いている。

2. QRGの簡単な年表

かなり省略したQRGの歴史を年表の形で以下に示す。

- 1963年 田口玄一博士をリーダーとする研究会を開始
- 1966年 「部門評価制度」など出版
- 1970年 台湾、中国での海外交流
- 1977年 シンポジウム開始
- 1982年 「品質工学への道」出版
- 1993年 複素数SN比の研究
- 2006年 田口博士長期休養
- 2013年 技術開発フォーラム開始

3. QRGの主旨

タグチフィロソフィーを基盤とした評価技術の研究と実践をおこなうということ

活動の根底に田口玄一博士の「よりよい社会を目指して」という哲学を置き

1. 企業の生産性を向上させる
2. 技術戦略を立てる